


	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（刑法）		
	ゼミ担当者名	秋山 栄一		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	刑法理論の探求
ゼミの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・法学的視点（特に刑事法学）から、社会現象を考察することができる。 ・学生各々が興味と関心をもった刑法学上の論点・テーマについて、重要判例・裁判例を中心にまとめ、個別報告及び皆での検討ができるようになる。 ・法律学科で実施されているゼミ発表会にエントリーし、報告を行うことができる。 ・ゼミ論文の準備ができる。 ・刑法学を手段として、他者の存在を自覚し、物事に対する深い洞察力とそれに対する的確な判断力を養う素地を養う。
ゼミの概要	<p>本ゼミナールでは、「法律事例研究Ⅰ」、「同Ⅱ」、「刑法総論」及び「刑法各論」の講義等を前提として、刑法総論・各論の重要判例を検討する。ゼミの前半では、対話形式で、総論及び各論の内容を概観しながら、学生自身が興味・関心をもつテーマを選択していく。その後、テーマに沿った主要な判例・裁判例を検討し、順次報告・発表していき、皆で検討するという形式を予定している。ただし、後述の授業計画については、学生の理解度・履修状況により、変更されることがある。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃、マスコミなどを通じて報道される社会の現象（特に、法律問題）に関心をもつこと。 ・指定されたテキスト、資料を事前に検討することを怠らないこと（1.5時間程度）。 ・各々設定したテーマについて、図書館等を活用し、適宜調べ、まとめるために、ゼミ以外の時間の準備を怠らないこと（最低1.5時間程度）。
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・刑事法学に興味と関心をもっていること。 ・ゼミナールの<u>ルールを遵守</u>できること（報告・発表の遵守、日頃からゼミメンバー同士・秋山とコミュニケーションがとれる、ゼミ行事の参加などのゼミ運営への協力等、詳細はゼミにて説明する）。 ・「法律事例研究Ⅰ」、「同Ⅱ」、「刑法総論」、「刑法各論」を履修済みであること、「刑事訴訟法」、「刑事政策」を履修していること。 ・必要な予習、復習が必ずできること。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、単位を認定できない。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とする。
テキスト	佐伯仁志等編『刑法判例百選Ⅰ〔第8版〕』有斐閣 2020、佐伯仁志等編『刑法判例百選Ⅱ〔第8版〕』有斐閣 2020 等。その他、学生のテーマに従って、適宜指示・紹介する。
参考文献・資料	大塚仁他編『大コンメンタール刑法〔第3版〕1巻～』青林書院、前田雅英他『最新重要判例250 刑法〔第12版〕』弘文堂・2020、松宮孝明編『判例刑法演習』法律文化社・2015 等。その他学生のテーマに従って、適宜指示・紹介する。
成績評価の方法	定期試験 40%、報告・発表、姿勢 60%の割合で厳正に評価する。
オフィスアワー	原則として、月曜日 14:40～16:10、水曜日 14:40～16:10 ※ 事前に連絡をもらえるとありがたい。その他時間が空いていれば適宜対応する。


成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	ゼミナールⅡは、いわば、学生が本格的に学問を行うスタートに当たるものです。知的世界の深みの一端をともに感じる事ができれば幸いです。また、自分のテーマに興味と関心を持つことは当然のことですが、自分以外のゼミのメンバーのテーマにも関心をもつことが重要です。それが自分のテーマの理解にも役立つことは当然のことだからです。ゼミの仲間とともに、多くの楽しみを見つけることもできればと考えています。

授業計画			
第1回	ガイダンス、 刑法の基礎の確認	第17回	各々のテーマについて学生個別報告・検討②-1
第2回	構成要件該当性の "	第18回	" ②-2
第3回	違法性の "	第19回	" ②-3
第4回	責任の "	第20回	" ②-4
第5回	共犯の "	第21回	" ②-5
第6回	未遂の "	第22回	" ②-6
第7回	個人的法益に対する罪の "	第23回	フィードバック③
第8回	社会的法益に対する罪の "	第24回	各々のテーマについて学生個別報告・検討③-1
第9回	国家的法益に対する罪の "	第25回	" ③-2
第10回	学生のテーマの設定の確認、 各々のテーマについて学生個別報告・検討①-1	第26回	" ③-3
第11回	" ①-1	第27回	" ③-4
第12回	" ①-2	第28回	" ③-5
第13回	" ①-3	第29回	" ③-6
第14回	" ①-4	第30回	" ③-7
第15回	" ①-5	第31回	まとめの提出、フィードバック
第16回	フィードバック②	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール II (経営学)		
	ゼミ担当者名	石川 雅敏 (いしかわ まさはる)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		


ゼミのテーマ	地域経済に貢献している企業の経営戦略について学ぶ。 経済発展を促すイノベーションの特性と発生メカニズムを学ぶ。
ゼミの到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1) 地域企業が外部環境の変化にどのような戦略で対応しているかが理解できる。 2) イノベーションの特質の基本を知ることができる。
ゼミの概要	研究対象とする企業またはイノベーションを1つ選択し、外部環境の変化との関係性に特に注目して調査研究を行う。
授業時間外の学習	1) 経営戦略に関する基礎的知識の学習 2) 企業の経営情報の収集および解析
履修条件	経営学基礎論および経営組織論の単位を取得している事が望ましい。 上記の科目の単位を履修済みであることを前提に、授業を進めます。
テキスト	「イノベーション・マネジメント入門」(第2版) 一橋大学イノベーション研究センター編、 日本経済新聞社 (2017)
参考文献・資料	「イノベーションを興す」伊丹敬之、日本経済新聞出版社 (2009) 「イノベーションの歴史」橘川武郎、有斐閣 (2019)
成績評価の方法	授業における優れた意見の発出 (20%)、レポート (30%)、定期試験 (50%) 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 レポート課題は授業内で指示します。
オフィスアワー	毎週火曜日・木曜日 15:00~17:00 *これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	地域企業が外部環境の変化にどのように戦っているかを一緒に研究しましょう。

授業計画			
第1回	イントロダクション	第17回	企業調査
第2回	研究対象企業の候補探し	第18回	企業調査
第3回	研究対象企業の候補探し	第19回	企業調査
第4回	研究対象企業の候補探し	第20回	企業調査
第5回	候補企業の概要調査	第21回	企業調査
第6回	候補企業の概要調査	第22回	企業調査
第7回	候補企業の概要調査	第23回	企業調査
第8回	研究企業を選択	第24回	企業調査
第9回	研究企業を選択	第25回	企業調査
第10回	研究企業を選択	第26回	解析
第11回	研究計画策定	第27回	解析
第12回	研究計画策定	第28回	解析
第13回	研究計画策定	第29回	レポート作成
第14回	研究計画策定	第30回	レポート作成
第15回	研究計画策定	第31回	レポート作成
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ (行動科学)		
	ゼミ担当者名	市原 光匡		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		


ゼミのテーマ	教育学やその基礎となる行動科学の研究手法に触れ、研究の素地を養うとともに、その手法を用いて課題研究を行う。
ゼミの到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学やその基盤としての行動学の研究枠組みを理解し、説明ができる。 2. 個々の能力や適性、興味関心をもとに研究テーマを設定し、それにしたがって研究を行うことができる。
ゼミの概要	<p>前期では、まず社会学に関するテキストを読み、社会学の対象と方法を理解するとともに、行動科学の基礎をふまえる。そのうえで、それぞれの関心をもとに学生自ら今後取り組む研究テーマを検討する。</p> <p>後期は、前期の学習をふまえ、それぞれ課題を設定し、個人またはグループで課題に取り組む。</p>
授業時間外の学習	現代の社会問題に関心を向け、自分なりの考えを主張できるようにしておきたい(1.5時間程度)。また復習として、授業で取りあげる研究分野ごとにその研究方法や研究の意義などをふまえておくこと(1.5時間程度)。
履修条件	<p>「地域フィールドワーク」「教育学入門」のいずれかを修得済みであること、または教職課程の所定の科目を修得し、次年度に教育実習を行う予定であることが望ましい。なお、下記の要件を満たさなかった場合、特別の事情のあるものを除き単位の修得を認定しない。</p> <p>・今年度中に「生涯学習」「地域フィールドワーク」「教育学入門」のいずれかを修得すること(または修得済みであること)</p> <p>なお、履修を希望するものは、履修登録に先だって担当教員と面談し、履修の許可を得ること。履修の許可を得ないまま履修登録をしても、単位の修得を認定しない。</p>
テキスト	秋元律郎・岩永雅也・倉沢進〔編著〕『社会学入門』放送大学教育振興会,2001.
参考文献・資料	必要に応じて適宜指示する。
成績評価の方法	ゼミナール内での発表・報告40%、平常点40%、期末試験20%の割合で評価を行う。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができない。
オフィスアワー	毎週火・木曜日 13:00～14:30
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>学生の参加によって成り立つ授業である。時間と手間はかかるが、興味関心をもって積極的に参加すれば、他の授業では得られない発見や体験もできる。したがってゼミナールの活動には積極的に参加すること。また各回意見交換の機会を設けるので、ゼミナール内でのコミュニケーションを深め、他者と協働しながら学習をすすめていくこと。</p> <p>なお、やむをえない事情により欠席・遅刻する際にはその都度連絡すること。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス	第17回	後期ガイダンス・計画実施状況の確認
第2回	文献講読①（社会学とは何か）	第18回	参考文献の報告会①（第1グループ）
第3回	文献講読②（社会学の方法）	第19回	参考文献の報告会②（第2グループ）
第4回	問題意識の明確化	第20回	参考文献の報告会③（第3グループ）
第5回	研究テーマの設定	第21回	文献講読⑪（エスニシティと国家）
第6回	研究テーマの報告・グルーピング	第22回	中間報告会（第1グループ）
第7回	文献講読③（自我とコミュニケーション）	第23回	中間報告会（第2グループ）
第8回	文献講読④（集団と組織）	第24回	中間報告会（第3グループ）
第9回	文献講読⑤（文化と社会化）	第25回	文献講読⑫（大衆社会と政治）
第10回	文献講読⑥（同調と逸脱）	第26回	文献講読⑬（メディアと大衆）
第11回	文献講読⑦（家族と社会）	第27回	文献講読⑭（現代社会と宗教）
第12回	文献講読⑧（教育と市民社会）	第28回	文献講読⑮（現代社会の諸相）
第13回	文献講読⑨（職業と階層）	第29回	最終報告会（第1グループ）
第14回	文献講読⑩（地域社会と生活）	第30回	最終報告会（第2グループ）
第15回	研究計画の策定	第31回	最終報告会（第3グループ）
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（観光学）		
	ゼミ担当者名	井上 寛		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日4時限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		


ゼミのテーマ	観光学を実践的に学ぼう
ゼミの到達目標	実践的に観光学を学ぶ方法を理解し、観光学全体を俯瞰できるようになる。
ゼミの概要	<p>「観光学」は、実は面白くて役に立つ学問です。その「観光学」を実践的かつ深く学ぶことがこのゼミナールにおける1年間のミッションです。</p> <p>3年生にとって重要なのは、後期に実施される卒業試験に合格すること、そして将来の就職に向けて少しずつ準備をすることです。そこで、ゼミナールⅡ（観光学）は、各自の興味・関心をもとに、メンバーと話し合ったうえで共通の研究テーマを決定し、フィールドワークを含めた観光学の実践的グループ研究を1年かけて行います。前にも述べたように、観光学は実践的な学問ですので、自分から「アクション」することを重視したいと思います。ゼミ時間外に活動することもあります。積極的に参加する意欲のある学生の参加を期待します。</p>
授業時間外の学習	ゼミ課題に対し主体的かつ真剣に取り組むこと。
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでに観光論入門Ⅰの単位を履修していること、または今年度履修すること。 2. 観光学を学ぶ意欲があること。 3. フィールドワークを実践する意欲があること。 4. ゼミ行事(高杉祭、観光行事、球技大会、食事会など)に主体的に参加する意欲があること。 5. 無断欠席などネガティブな言動をしないこと。
テキスト	竹内正人他 編著『入門 観光学』ミネルヴァ書房 2018年（観光論入門Ⅰで使用したテキスト）
参考文献・資料	ゼミナールの時間に適宜指示します。
成績評価の方法	定期試験(30%)・行事への参加(20%)・提出物(20%)・平常点(30%) 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週月曜日1時限(9:00~10:30) 毎週金曜日3時限(13:00~14:30)
成績評価の基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>ゼミ担当の井上寛は、学生時代「障害者・高齢者の旅行」という研究テーマに出会い、これまで一貫して観光を学び続けています。</p> <p>観光学はとにかく「実践」することが重要ですが、そのベースとなる社会科学を深く学ぶことも重要です。みなさんの今後の人生の中で、「私は大学で実践的に観光学を学んだ!」と堂々と語れるように、学生時代より観光学を学んできた先輩として、一緒に学び続けていきたいと思えます。その「実践」のためには、観光学ゼミナールでは、課題や研究に関して、自分たちで考え企画し、実践することを重視します。そして、高杉祭をはじめ旅行やコンパなどのゼミ行事も、受け身ではなく積極的に参加し一緒に楽しむことのできる学生の履修を希望します。</p>

授業計画			
第1回	前期オリエンテーション	第16回	後期オリエンテーション
第2回	未来の目標を語ろう	第17回	研究課題中間報告Ⅰ
第3回	新しいツーリズムを学ぶ1	第18回	研究課題中間報告Ⅱ
第4回	新しいツーリズムを学ぶ2	第19回	データ集計の方法
第5回	新しいツーリズムを学ぶ3	第20回	ゼミ論の書き方
第6回	研究課題ディスカッション1-1	第21回	観光学を多面的に捉える1
第7回	研究課題ディスカッション1-2	第22回	観光学を多面的に捉える2
第8回	研究課題ディスカッション1-3	第23回	観光学を多面的に捉える3
第9回	研究課題ディスカッション1-4	第24回	観光学を多面的に捉える4
第10回	ふりかえりⅠ	第25回	観光学を多面的に捉える5
第11回	観光フィールドワークの方法1	第26回	観光学を多面的に捉える6
第12回	観光フィールドワークの方法2	第27回	ふりかえりⅢ
第13回	観光フィールドワークの方法3	第28回	研究発表Ⅰ
第14回	観光フィールドワークの方法4	第29回	研究発表Ⅱ
第15回	ふりかえりⅡ・反省会	第30回	ふりかえりⅣ・反省会
		第31回	後期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ (刑事法)		
	ゼミ担当者名	岡崎 頌平		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		


ゼミのテーマ	事例で学ぶ刑法
ゼミの到達目標	<p>受講者は、本ゼミナールを履修することによって、刑法・刑事訴訟法に関する基礎的知識に基づいて、自ら選択した事例について考察し、以下のことができるようになる。</p> <p>1) 刑法の重要問題に関する判例・学説の整理・説明 2) 刑事訴訟法の重要問題に関する判例・学説の整理・説明</p>
ゼミの概要	<p>本ゼミナールでは、事例演習を通じて、刑事法(刑法・刑事訴訟法)の理解をより深めます。もっとも、本ゼミナール担当者の専門が刑法であることから、主として刑法に関する事例を多く取り扱う予定です。また、本ゼミナールでは、事例演習を通じて、受講者に刑法・刑事訴訟法の重要問題から関心のあるテーマを1つ選択して、ゼミナールⅢで完成させるゼミ論文の土台となるゼミレポートを提出してもらう予定です(成績評価の方法を確認すること)。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> 教科書等を用いて、自ら選択した事例に関する報告レジュメを作成すること。(予習: 120分) 毎回扱った内容についてレジュメ等を使って振り返ること。(復習: 120分)
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> 法律事例研究Ⅰ・Ⅱ、刑法総論、刑法各論の単位を修得済みであること。 刑事訴訟法・刑事政策を確実に同時履修すること。 <p>なお、上記した条件は必要条件であるから、これらの条件を充たさない者は履修を認めない。</p>
テキスト	<p>島田聡一郎・小林憲太郎『事例から刑法を考える[第3版]』有斐閣(2014) 長沼範良ほか『演習刑事訴訟法』有斐閣(2005)</p>
参考文献・資料	<p>十河太朗『刑法事例演習』有斐閣(2021)；今井猛嘉ほか『刑法総論[第2版]』『刑法各論[第2版]』有斐閣(2012・2013)；松宮孝明『刑法総論講義[第5版補訂版]』『刑法各論講義[第5版]』成文堂(2018・2018)；宇藤崇ほか『刑事訴訟法[第2版]』有斐閣(2018)；酒巻匡『刑事訴訟法[第2版]』有斐閣(2020)；安富潔『刑事訴訟法[第2版]』三省堂(2013)；三井誠『刑事手続法(1)新版』『刑事手続法2』『刑事手続法3』有斐閣(1997・2003・2004)；古江頼隆『事例演習刑事訴訟法[第2版]』有斐閣(2016)</p>
成績評価の方法	<p>ゼミレポート50%、授業への参加状況(報告・質疑応答など)30%、定期試験20%</p> <p>※ゼミレポートについては、1枚あたり40字×30行の用紙設定(A4サイズ)で最低6枚以上のものの提出を求める予定です。また、高杉祭等の公開の場での報告会も予定しています。</p> <p>※出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	月曜1・2限
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>この授業は、単一方向のものではなく、双方向のものになりますので、積極的な参加(発言)を期待しています。また、これも当然のことを述べることにはなりますが、欠席・遅刻をする場合には必ず連絡するようにしてください。無断欠席等は厳禁です(なお、無断欠席等があった場合、その事情によっては、それ以降の履修を認めません)。</p>

授業計画			
第1回	イントロダクション[講義の進め方など]	第17回	第3回事例報告①
第2回	第1回事例報告①	第18回	第3回事例報告②
第3回	第1回事例報告②	第19回	第3回判例報告③
第4回	第1回事例報告③	第20回	第3回判例報告④
第5回	第1回事例報告④	第21回	第3回判例報告⑤
第6回	第1回事例報告⑤	第22回	第3回判例報告⑥
第7回	第1回事例報告⑥	第23回	まとめ③
第8回	まとめ①	第24回	第4回事例報告①
第9回	第2回事例報告①	第25回	第4回事例報告②
第10回	第2回事例報告②	第26回	第4回事例報告③
第11回	第2回事例報告③	第27回	第4回事例報告④
第12回	第2回事例報告④	第28回	第4回事例報告⑤
第13回	第2回事例報告⑤	第29回	第4回事例報告⑥
第14回	第2回事例報告⑥	第30回	まとめ④
第15回	まとめ②	第31回	全体のまとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（社会政策）		
	ゼミ担当者名	木村 澄		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日4限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		


ゼミのテーマ	「人間の一生をどのように保障するのか」
ゼミの到達目標	日本の「社会保険制度」に関する各種制度を概略的に理解して、みなさんの職業生活と人生において活かせるようにすることを目標とします。
ゼミの概要	日本の社会保障制度について、テーマ別に概観して行きます。毎回の発表はありません。
授業時間外の学習	配付するレジュメのコラムを見れば簡単な予習ができます。そうすることで、次のゼミの内容の理解が進みます。また、簡単な復習をすることで、ゼミ内容の理解を深めることができます。
履修条件	特にありません。
テキスト	ゼミナールの時間にレジュメや資料を配付します。
参考文献・資料	ゼミナール内で指示します。
成績評価の方法	<p>【出席状況（50%）、中間試験（25%）期末試験（25%）】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 演習中に無許可で退出した場合は欠席とします。 授業の理解および予習・復習が充分であるかを確認するため、小テストを行うことがあります。 レポート課題を課す場合は、授業内または掲示板（ポータルサイト含む）で指示をします。
オフィスアワー	毎週月曜日 13:00~14:00・火曜日 13:00~14:00 ※これ以外の時間帯でも可能な限り対応します。
成績評価基準	秀 (90~100点)、優 (80~89点)、良 (70~79点)、可 (60~69点)、不可 (0~59点)
学生へのメッセージ	皆さんの将来の職業生活や人生をとおして必ず役に立つゼミです。 「わかる・できる」ようになるを大切にしましょう。 できるだけ「楽しく」を目指します。

授業計画			
第1回	前期オリエンテーション	第17回	後期オリエンテーション
第2回	社会政策の理論 (1)	第18回	医療保険制度 (1)
第3回	社会政策の理論 (2)	第19回	医療保険制度 (2)
第4回	社会政策の理論 (3)	第20回	医療保険制度 (3)
第5回	社会政策の理論 (4)	第21回	年金保険制度 (1)
第6回	社会政策の理論 (5)	第22回	年金保険制度 (2)
第7回	社会政策の理論 (6)	第23回	労働者災害補償保険制度 (1)
第8回	社会保障制度の生成	第24回	労働者災害補償保険制度 (2)
第9回	社会保障の役割と方法	第25回	労働者災害補償保険制度 (3)
第10回	イギリスの社会保障の歴史的発展 (1)	第26回	雇用保険制度 (1)
第11回	イギリスの社会保障の歴史的発展 (2)	第27回	雇用保険制度 (2)
第12回	日本の社会保障の歴史的発展 (1)	第28回	介護保険制度 (1)
第13回	日本の社会保障の歴史的発展 (2)	第29回	介護保険制度 (2)
第14回	生活保護法 (1)	第30回	介護保険制度 (3)
第15回	生活保護法 (2)	第31回	まとめ
第16回	中間試験	第32回	期末試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ(財務会計)		
	ゼミ担当者名	國井法夫		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	日商簿記3級・日商簿記2級資格・宅建士・管理業務主任者・FP資格を取得する
ゼミの到達目標	1年間で日商簿記2・3級を全員取得すること。
ゼミの概要	①各学生の目標に沿って各自が勉強する。②ゼミ協発表大会のための研究
授業時間外の学習	ゼミとは別に週1回個別に私の研究室で問題演習をやる。
履修条件	ゼミを欠席しないこと。
テキスト	各自の目標に合わせたテキストを持ってくる。
参考文献・資料	
成績評価の方法	授業態度・出席状況・検定試験の合否・自分の目標を持っているかどうかを見て評価する。出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日5時間目
成績評価基準	授業態度70%・検定試験の合否30% 秀(90~100点)、優(80~89点)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(0~59点)
学生へのメッセージ	近年、楽な方に楽な方に流れる学生が多い。積極的に目標に向かって努力する人を希望します。


授業計画(簿記資格取得希望者)			
第1回	日商簿記2級 P/L・B/Sの作成・株式の発行 工業簿記 基礎	第17回	日商簿記2級 月次決算 工業簿記 総合原価計算・月末仕掛品
第2回	日商簿記2級 株主資本 工業簿記 材料費の分類・計算	第18回	日商簿記2級 精算表 工業簿記 総合原価計算・月末仕掛品
第3回	日商簿記2級 現金預金・債権債務の処理 工業簿記 材料費の減耗・予定消費単価	第19回	日商簿記2級 帳簿締め切り 工業簿記 総合原価計算・月末仕掛品
第4回	日商簿記2級 有価証券の処理 工業簿記 労務費の分類・処理	第20回	日商簿記2級 財務諸表 工業簿記 工程別総合原価計算
第5回	日商簿記2級 子会社株式・関連会社株式 工業簿記 労務費の予定賃率	第21回	日商簿記2級 本支店会計 工業簿記 組別総合原価計算
第6回	日商簿記2級 商品売買について 工業簿記 経費	第22回	日商簿記2級 合併財務諸表 工業簿記 等級別総合原価計算
第7回	日商簿記2級 有形・無形固定資産について 工業簿記 労務費の分類・処理	第23回	日商簿記2級 税効果会計・課税所得 工業簿記 総合原価計算・仕損と減損
第8回	日商簿記2級 リース取引 工業簿記 個別原価計算・製造直接費・間接費	第24回	日商簿記2級 税効果会計・会計処理 工業簿記 総合原価計算・仕損と減損
第9回	日商簿記2級 リース取引 工業簿記 予定配賦率の処理	第25回	日商簿記2級 税効果会計・会計処理 工業簿記 総合原価計算・行程別追加投入
第10回	日商簿記2級 税金 工業簿記 予定配賦率の処理	第26回	日商簿記2級 連結財務諸表・資本結合 工業簿記 総合原価計算・行程別追加投入
第11回	日商簿記2級 引当金 工業簿記 部門別個別原価計算・間接費・個別費	第27回	日商簿記2級 連結財務諸表・会社間取引 工業簿記 財務諸表の作成・製造原価報告書
第12回	日商簿記2級 外貨建て取引 工業簿記 部門別個別原価計算・間接費・共通費	第28回	日商簿記2級 連結財務諸表・未実現利益の消去 工業簿記 本社工場会計
第13回	日商簿記2級 為替予約 工業簿記 部門別個別原価計算・補助部門費	第29回	日商簿記2級 連結財務諸表・連結精算表 工業簿記 標準原価計算
第14回	日商簿記2級 為替予約 工業簿記 部門別個別原価計算・補助部門費	第30回	日商簿記2級 連結財務諸表・連結精算表 工業簿記 直接原価計算
第15回	日商簿記2級 決算 工業簿記 部門別個別原価計算・予定配賦	第31回	
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（安全保障論）		
	ゼミ担当者名	佐藤 克枝		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	安全保障について学び、問題点となる事項について研究・討議する。
ゼミの到達目標	<p>この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を習得できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 国家の成立要件（住民・領土・政府・外交能力）を説明できる。 2 領域及び日本の領土問題の概要を説明できる。 3 防衛政策の基本（専守防衛）、日米安全保障体制が説明できる。 4 国家安全保障戦略、事態対処法制、平和安全法制の概要を説明できる。 5 国連の集団安全保障体制と集団的自衛権の差異を理解している。 6 武力攻撃事態への対処のための法律の概要を理解している。 7 国民保護についての国や自治体の取り組みについて説明できる。 8 安全保障に関し、選択したテーマについて自己の意見を述べ、解説することができる。
ゼミの概要	<p>日本の安全保障について 国際環境と国内政治がどのようにかかわってきたのかにも着目しつつ学んでいきます。</p> <p>世界の各国は独自の安全保障政策や、安全保障組織により、自国の主権と独立を確保しています。現在の国際情勢、とりわけ軍事情勢は厳しい状況にあります。そのような中で、各国はそれぞれの防衛努力により、周辺諸国と連携するとともに、国連の集団的安全保障体制の下で平和と安全を維持しているところです。</p> <p>前半は現在の平和安全保障体制の下で日本がどのような安全保障政策をとっているのか、国連の集団安全保障体制、日米及び関係各国との安全保障体制についても解説していきます。後半は、重要問題から関心のあるテーマを1つ選択し、ゼミナールⅢで行うゼミ論文の前提となるゼミレポートを作成し、安全保障についてさらに理解を深めていきます。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の安全保障政策に関するニュースに関心を持つこと。 ・国際的な軍事情勢、国際テロ、日本周辺の情勢に関心を持ち、国連や当事国の対処状況に関心を持つこと。 <p>（予習 2時間程度、復習 2時間程度）</p>
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> 1 次の①～③の条件をすべて満たすこと。 <ol style="list-style-type: none"> ①国際関係論、統治機構、行政学Ⅰ・Ⅱいずれかの単位を修得済みであること。 ②1回目又は2回目のゼミナールに出席し、安全保障に関する関心事項についてペーパーを提出すること（フォーマットは出席時に配布する。） ③履修登録にあたっては、担当教員と面接の上、履修許可を得ること。 2 安全保障論ゼミナールⅠの単位を修得済みであること、安全施策論を同時履修であることが望ましい。 3 ゼミナール内での討議に参加すること。発言できない学生の参加は認めない。
テキスト	授業中に指示する。
参考文献・資料	<p>防衛白書（令和元年版）、外交青書（令和元年版）、田村重信等『日本の防衛法制』（内外出版）、同『日本の防衛政策』（内外出版）、森本敏『日本の安全保障』（実務教育出版）、武田康裕『安全保障のポイントがよくわかる本』（亜紀書房）、西原正『わかる平和安全法制』（朝蜘蛛新聞社）、武田康裕ほか『新訂第5版 安全保障学入門』（亜紀書房）、渡邊隆『平和のための安全保障論 軍</p>


	事力の役割と限界を知る』(かもがわ出版)、田村重信・さとう正久編著『教科書 日本の防衛政策』芙蓉書房出版、松本利秋『逆さ地図で解き明かす新世界情勢』(ウエッジ)
成績評価の方法	授業への参加状況(報告・質疑応答など)50%、レポート50% ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日14:40~16:10・水曜日14:40~16:10
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	国際関係や国家としての安全保障のあり方、国民保護等に興味のある学生の積極的な参加を期待しています。早期に研究発表・レポート作成に入ることができるようにするため、安全保障論の体系的な学習と平行して、毎回安全保障に関するトピックについて討議します。後期では、実際に安全保障に携わる防衛省及び国民保護計画策定の中心となる自治体の関係者をゲストスピーカーとして招聘して特別講義をして頂き、安全保障について、さらに理解を深めてもらう予定です。

授業計画			
第1回	ガイダンス 安全保障のまとめ(ゼミナールIのふりかえり)	第17回	レポート作成準備 テーマの確認・研究の方向性
第2回	国家・領域の問題とは	第18回	文献検索・中間指導(グループ1)
第3回	我が国の領土問題	第19回	文献検索・中間指導(グループ2)
第4回	防衛政策とは	第20回	文献検索・中間指導(グループ3)
第5回	我が国の防衛政策	第21回	中間報告(グループ1)
第6回	防衛と治安維持	第22回	中間報告(グループ2)
第7回	広義の安全保障①	第23回	中間報告(グループ3)
第8回	広義の安全保障②	第24回	個別指導①
第9回	安全保障と自治体の役割	第25回	個別指導②
第10回	武力攻撃事態とその対処	第26回	レポートゼミナール発表(グループ1)
第11回	国民保護法	第27回	レポートゼミナール発表(グループ2)
第12回	国際連合の動き	第28回	レポートゼミナール発表(グループ3)
第13回	紛争の平和的解決手段	第29回	特別講義①(ゲストスピーカー)
第14回	国際平和協力活動①	第30回	特別講義②(ゲストスピーカー)
第15回	国際平和協力活動②	第31回	全体のまとめ
第16回	前期のまとめ		

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（民法）		
	ゼミ担当者名	高橋佑輔		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	木曜日5限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		


ゼミのテーマ	民法の基礎知識を修得するとともに、具体的な問題の解決策を考える能力を育む。
ゼミの到達目標	民法の基礎知識を修得し、問題を検討し解決するための方策を考えることができる。公務員試験等で問われる民法の知識を確実に身に付ける。
ゼミの概要	<p>判例等の事例を題材として、報告担当者の発表をベースに事例研究を行い、また、関連する法分野の知識の確認を行う。報告担当者以外の参加者にも発言を求め（指名する）、担当教員との対話方式でゼミナールを進行する。</p> <p>ゼミナールⅡ（3年次）は、年度末までに履修者全員が公務員試験（国家一般職、地方上級）で求められる程度の民法知識を習得し、単独で民法に関する研究・報告を行うことができることを目標とする。</p> <p><u>本ゼミナールでは、各回のゼミナール冒頭にミニテストを実施する他、定期的に学習到達度確認テストを実施します。</u></p> <p><u>履修人数により異なりますが、履修者全員が少なくとも年2回以上（通常4回程度）ゼミナール内で発表を担当することになります。また、原則として発表準備はゼミナール時間外に行ってもらいます（発表内容等に関する教員への相談は歓迎します）。</u></p>
授業時間外の学習	ゼミナールで扱った範囲について、問題演習等を通じて復習すること（1.5時間）。報告担当者は、報告において引用する資料等も確認して報告準備を行うこと。
履修条件	民法総則、物権法履修程度の民法知識があること（実際に履修しているかは問わない）。債権総論、債権各論、親族・相続の各科目を卒業までに履修すること。
テキスト	履修者と相談して指定する。
参考文献・資料	適宜指示する。
成績評価の方法	ゼミナール内での報告（75%）と試験結果（25%）に出席状況、学習到達度確認テスト結果等を加味して評価する。出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日13:00～14:30・木曜日13:00～14:30
成績評価基準	秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（50点以下）
学生へのメッセージ	<p>民法を学ぶ意欲のある学生の参加を歓迎します。参加希望者は毎回判例集と六法、民法のテキストを手元に準備することが必須です。</p> <p><u>毎回の出席は当然ですので、理由なく欠席した場合にはレポート等の提出を求めます。</u></p>

授業計画			
第1回	ガイダンス	第17回	学習状況の確認・事例検討
第2回	事例検討	第18回	事例検討
第3回	事例検討	第19回	事例検討
第4回	発表準備・調査（図書館での判例DB検索など）	第20回	学習到達度確認テスト⑤ 発表準備・調査・面談
第5回	学習到達度確認テスト① 発表準備・調査・面談（発表準備状況確認）	第21回	発表準備・調査・面談
第6回	事例検討	第22回	事例検討
第7回	発表・事例検討	第23回	発表・事例検討
第8回	発表・事例検討	第24回	学習到達度確認テスト⑥ 発表・事例検討
第9回	学習到達度確認テスト② 発表・事例検討	第25回	発表・事例検討
第10回	発表・事例検討	第26回	発表・事例検討
第11回	発表・事例検討	第27回	発表・事例検討
第12回	発表・事例検討	第28回	学習到達度確認テスト⑦ 発表・事例検討
第13回	学習到達度確認テスト③ 発表・事例検討	第29回	発表・事例検討
第14回	事例検討	第30回	事例検討
第15回	前期のまとめ	第31回	後期のまとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（社会心理学）		
	ゼミ担当者名	瀧澤 純（たきざわ じゅん）		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	社会心理学に関する検証を行う。
ゼミの到達目標	3年生のゼミでは自己や他者に関する研究案を考え、研究を実施できるようになることを目標とする。社会・人間・動物について温かく想いやる視点と、冷静に分析する視点を両立させてほしい。
ゼミの概要	<p>心理学の視点や方法を用いて検証し、発信するゼミである。ゼミでは「簡単に調べただけでは答えが出せない問題」に取り組む。ゼミでの活動により、所属する学科の学びにも、試験勉強にも、就職活動にも、公務員試験にも、その後の人生にも活かすことを目指す。</p> <p>前期は3年生研究（実験や調査）を計画・実施し、データの分析を行う。後期は、2000字以上の論文作成、発表を行う。さらに、卒業研究の前段階として、心理学の論文の輪読を行う。</p>
授業時間外の学習	<p>ゼミの時間外で、グループでの話し合い、資料の検索、実験の考案・調査用紙の作成、実験や調査への協力の呼び掛け、データ入力、データ分析、レポートや論文作成、発表用スライドの作成などに取り組む必要がある（週2.0時間程度）。</p> <p>さらに、毎週のゼミ前には指定された資料を読み（週1.0時間程度）、ゼミ後には復習を行うことを求める（週1.0時間程度）。</p>
履修条件	<p>前年度に、瀧澤が担当したゼミの単位を取得していることが必要である。そうでない場合は、以下の①と②の両方を満たさなければ、このゼミを履修できない。</p> <p>①ゼミを履修する時点で「心と行動Ⅰ、心と行動Ⅱ、統計学、人間行動学、犯罪心理学、社会調査の仕方、スポーツ心理学、学生生活入門Ⅱの8科目」から3科目以上の単位が取得済みであること</p> <p>②ゼミ第3回開始までに教員との面談に合格し、受講の許可を得ること</p>
テキスト	使用しない。学生自身が、取り組むテーマに応じて資料を探す必要がある。
参考文献・資料	Nolen-Hoeksema ほか（著）『ヒルガードの心理学 第16版』（ブレーン出版、2015年）
成績評価の方法	行事への参加と取り組み姿勢20%、提出物と発表60%、定期試験20%の割合で評価する。出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日の3時限（13:00から14:30）、金曜日の2時限（10:40から12:10）とする。
成績評価基準	100～90点を秀、89～80点を優、79～70点を良、69～60点を可、59点以下を不可とする。
学生へのメッセージ	積極的な参加が求められるゼミです。学年合同の懇親会、球技大会、大学祭、ゼミ旅行、各学年の発表会など、学年やゼミを越えて人と関わる中で、人を想うことができる人になってください。心理学による検証を行い、検証結果を発信する中で、人への思慮深さを身につけてください。

授業計画			
第1回	ガイダンス：教員の研究紹介①	第17回	レポートの作成①：問題と目的、方法
第2回	心理学の概要：よい研究とは、教員の研究紹介②	第18回	レポートの作成②：結果、考察
第3回	実験や調査の基本：3年生研究(3年研)について、連絡グループ作成	第19回	レポートの作成③：追加の資料の検索
第4回	3年研の計画①：テーマの設定	第20回	レポートの作成④：校正
第5回	3年研の計画②：先行研究の検討	第21回	発表の準備①：研究発表のマナー
第6回	3年研の計画③：仮説の設定、仮説を補助する変数	第22回	発表の準備②：スライド発表の技術
第7回	研究案の投票、チーム作り	第23回	発表の準備③：リハーサル
第8回	3年研の準備①：場面の設定	第24回	3年生研究発表会
第9回	3年研の準備②：道具の作成、場所の確保	第25回	3年生研究発表会(予備日)
第10回	3年研の準備③：担当役割、段取り	第26回	論文の探し方：よい論文、悪い論文
第11回	3年研の実施①：前半組	第27回	卒業研究に向けたテーマ相談
第12回	3年研の実施②：後半組	第28回	卒業研究に向けた輪読①
第13回	データ分析の準備①： χ^2 検定、t検定	第29回	卒業研究に向けた輪読②
第14回	データ分析の準備②：相関、回帰分析	第30回	卒業研究に向けた輪読③
第15回	データ入力、データ分析	第31回	卒業研究発表会への参加
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（情報システム管理論）		
	ゼミ担当者名	瀧森 威		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	最新の情報・IT技術を通して、その分野の基本的な資質を磨きます。
ゼミの到達目標	<p>このゼミの単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人としての自覚・良識・思考を身に付ける。 2. グループによる調査・研究・発表を通して、チームワークやコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が身に付く。 3. 情報リテラシー能力、情報処理技術の基本が身に付く。
ゼミの概要	<p>情報技術・IT関連資格の取得に向けた知識と実技の習得と実践を行います。</p> <p>情報やITの技術動向調査研究を行います。</p> <p>学生が社会人になるための基本的な資質を磨きます。</p>
授業時間外の学習	<p>情報やITの技術動向に対して絶えず関心を持って調査研究する。</p> <p>多くのソフトウェアを使いこなす。</p>
履修条件	<p>コンピュータ入門やコンピュータ利用技術Ⅰ、情報システム管理論ゼミナールⅠを修得している学生が望ましい。適宜資料を配布しますが、欠席した学生は配布資料の有無を確認し、研究室まで取りに来てください。</p>
テキスト	情報やIT関連に関するプリント、資格取得のためのプリント
参考文献・資料	講義中に適宜紹介します。ITパスポート関連、日商PC検定関連、MS検定関連資料。
成績評価の方法	<p>講義中に実施する実践的課題 30%（知識問題・実技問題・レポート）、グループ調査研究 30%、試験 40%により判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・課題は必ず提出することが前提で、授業内又は掲示板で指示します。
オフィスアワー	<p>毎週 金曜日 10:40～12:10</p> <p>これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。</p>
成績評価基準	秀 (100～90点)、優 (89～80点)、良 (79～70点)、可 (69～60点)、不可 (59点以下)
学生へのメッセージ	<p>情報（プログラム開発等）やIT関連の仕事に就きたい人にはお勧めです。</p> <p>大きな仕事をやりとげた人達からの教え等、学生たちがこれからの進路や人生をどのように歩んでいくべきか、今一度学生の皆さんと一緒に考えましょう。また、情報やIT関連資格取得を目標にしましょう。</p>

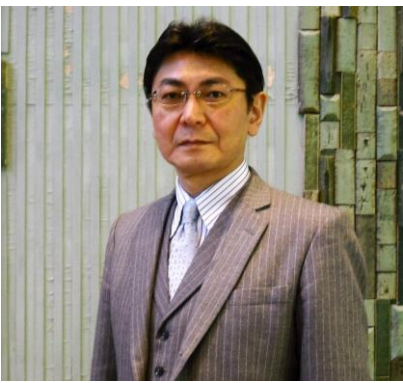
授業計画			
第1回	ゼミナールの概論	第17回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班調査研究
第2回	情報やIT関連の資格取得について	第18回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班調査研究
第3回	情報処理技術の応用的知識の習得① (コンピュータの構成要素) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題1)	第19回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班調査研究
第4回	情報処理技術の応用的知識の習得② (プロセッサとメモリ、記憶装置等) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題2)	第20回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 中間発表準備
第5回	情報処理技術の応用的知識の習得③ (入出力インタフェース、知識問題確認) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題3)	第21回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 中間発表準備
第6回	情報処理技術の応用的知識の習得④ (ソフトウェアの種類と構成、プログラミング言語) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題4)	第22回	ゼミ内各研究中間発表会
第7回	情報処理技術の応用的知識の習得⑤ (コンピュータの原理、基数変換、論理演算) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題5)	第23回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 改善・改良
第8回	情報処理技術の応用的知識の習得⑥ (統計の基礎、アルゴリズムとデータ構造) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題6)	第24回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 改善・改良
第9回	情報処理技術の応用的知識の習得⑦ (代表的な整列アルゴリズム、知識問題確認) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題7)	第25回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 本番発表準備
第10回	情報処理技術の応用的知識の習得⑧ (マルチメディア、知識問題確認) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題8)	第26回	ゼミ内各研究発表会
第11回	情報処理技術の応用的知識の習得⑨ (データベース、データベース知識問題確認) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題9)	第27回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 論文作成
第12回	情報処理技術の応用的知識の習得⑩ (コンピュータシステムの評価指標) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題10)	第28回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 論文作成
第13回	情報処理技術の応用的知識の習得⑪ (ネットワークとプロトコル) 応用的IT活用実践能力の習得(実技問題11)	第29回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 論文作成
第14回	調査研究のための概要 (グループ分けとテーマ説明)	第30回	情報・IT技術班、秋田県の諸問題班 論文作成
第15回	最新情報及びIT技術の調査研究班決め 秋田県の諸問題班決め	第31回	1年間の総括
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ (行政学・政治学)		
	ゼミ担当者名	寺迫 剛		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	<p>そもそも行政や政治とは「社会を共にし、運命を分かち合っている人々が互いに力を合わせて共通のニーズを充足し、人間としてのよりよき存在のために必要な諸条件を整えていくことを目指す集合的な営為」(片岡寛光(1990)『国民と行政』早稲田大学出版部)であることを、本ゼミナールを通じて認識し、行政(学)・政治(学)についての理解を深めること。ゼミナールⅠ,Ⅱ,Ⅲを通じて、段階的にゼミ論文を執筆、完成させましょう。</p>
ゼミの到達目標	<p>①行政(学)・政治(学)についての一般的知識を習得し、 ②ゼミ参加者各自が、各々のテーマを探求し、 ③他国の事例あるいは同国の他のテーマとの比較の視点を獲得することにより、各自がゼミ論文の執筆に取り組むこと。</p>
ゼミの概要	<ul style="list-style-type: none"> ▶ テキストあるいはレジュメを輪読する形式とします。また、各自のゼミ論文に向けたテーマ設定や進捗について報告し、話し合う場としましょう。 ▶ 行政学および政治学の基礎知識を効率よく習得するため、いわゆる公務員試験対策教材を活用する場合があります。 ▶ ノースアジア大学では卒業試験に合格しなければ卒業できません。本ゼミは卒業試験科目に合致しませんが、ゼミ参加者で協力して卒業試験対策に取り組み、準備を進めましょう。
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 文部科学省の大学設置基準第21条に基づき、事前学習(1.5時間)および事後学習(1.5時間)とします。 ▶ 世間、社会、世界に関心をもって過ごすことで、事前・事後学習時間に充当すること。
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ゼミナールⅠを履修していない場合には、第1回あるいは第2回(お試し)ゼミに出席すること。出席できない場合には、必ず、履修前に国家試験等センターへ「顔つなぎ」に来てください。 ▶ 「行政学Ⅰ・Ⅱ」、「公共政策論」、「都市政策論」を、できるだけ履修しましょう。
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ゼミ参加メンバーと調整して決定
参考文献・資料	<p>『〇〇行政学(タイトル未定)』西岡晋・廣川嘉裕編(文真堂、2021 予定近刊) 『テキストブック地方自治の論点』宇野二郎・長野基・山崎幹根(ミネルヴァ書房、2021 予定近刊) 『政府間関係の多国間比較』秋月謙吾・城戸英樹編(慈学社、2021) 『行政学[新版]』真淵勝(有斐閣、2020) 『行政学の基礎』風間規男編著、岡本三彦、中沼丈晃、上崎哉(一藝社、2019) 『行政学講義』金井利之(ちくま新書、2018) 『行政学』原田久(法律文化社、2016) 『行政学[第2版]』外山公美編(弘文堂、2016) 『はじめての行政学』伊藤正次、出雲明子、手塚洋輔(有斐閣スタジオ、2016) 『行政学』曾我謙悟(有斐閣アルマ、2013) 『雇用連帯社会』井手英策編(岩波書店、2011) 『コレク行政学』縣公一郎・藤井浩司編(成文堂、2007) 『岩波講座 都市の再生を考える(第1巻) 都市とは何か』植田和弘・西村幸夫・神野直彦・間宮陽介編(岩波書店、2005) 『行政学[新版]』西尾勝(有斐閣、2001) 『国民と行政』片岡寛光(早稲田大学出版部、1990)</p>

成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ゼミでの積極的参加・貢献の度合い (60%) ▶ レポートあるいは試験 (40%) <p>※ノースアジア大学の規定により、出席回数規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	水曜日 4 限および木曜日 1 限
成績評価基準	秀 (100~90 点)、優 (89~80 点)、良 (79~70 点)、可 (69~60 点)、不可 (59 点以下)
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 人は「一人じゃ生きられない」からこそお互いに協働し(「都市政策論」参照)、 ▶ 公共政策の射程は「当たり前」でも「他人事」でもなく(「公共政策論」参照)、 ▶ 「誰も見捨てないこと」こそ本来の行政・政治である(「行政学 I・II」参照)、 <p>という認識を涵養し共有できる場にしましょう。</p>


授業計画			
第 1 回	オリエンテーション	第 17 回	インターミッション
第 2 回	行政学・政治学の探求① 政官関係論と公共政策①	第 18 回	卒業試験および公務員・資格試験等への準備①
第 3 回	行政学・政治学の探求② 政官関係論と公共政策②	第 19 回	卒業試験および公務員・資格試験等への準備②
第 4 回	行政学・政治学の探求③ 政官関係論と公共政策③	第 20 回	卒業試験および公務員・資格試験等への準備③
第 5 回	行政学・政治学の探求④ 政党・議会政治の各国比較①	第 21 回	卒業試験および公務員・資格試験等への準備④
第 6 回	行政学・政治学の探求⑤ 政党・議会政治の各国比較②	第 22 回	各ゼミ論文の進捗状況のプレゼンテーション①
第 7 回	行政学・政治学の探求⑥ 政党・議会政治の各国比較③	第 23 回	各ゼミ論文の進捗状況のプレゼンテーション②
第 8 回	行政学・政治学の探求⑦ 官僚制論・公務員制度論①	第 24 回	各ゼミ論文の進捗状況のプレゼンテーション③
第 9 回	行政学・政治学の探求⑧ 官僚制論・公務員制度論②	第 25 回	各ゼミ論文の進捗状況のプレゼンテーション④
第 10 回	行政学・政治学の探求⑨ 官僚制論・公務員制度論③	第 26 回	各ゼミ論文の枠組みの構築と討議①
第 11 回	ゼミ参加者の各テーマのプレゼンテーション①	第 27 回	各ゼミ論文の枠組みの構築と討議②
第 12 回	ゼミ参加者の各テーマのプレゼンテーション②	第 28 回	各ゼミ論文の枠組みの構築と討議③
第 13 回	ゼミ参加者の各テーマのプレゼンテーション③	第 29 回	各ゼミ論文の枠組みの構築と討議④
第 14 回	ゼミ参加者の各テーマのプレゼンテーション④	第 30 回	ゼミナール II のまとめと III への展望①
第 15 回	ゼミ参加者の各テーマのプレゼンテーション⑤	第 31 回	ゼミナール II のまとめと III への展望①
第 16 回	定期試験	第 32 回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（人間科学）		
	ゼミ担当者名	西巻 丈児（にしまき じょうじ）		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	人間とふるまい－経済活動をする「人間」とは－
ゼミの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間は社会生活の中で、どのようにふるまえばよいのか、という行為の諸問題を、自分自身の身近な問題として考える習慣を身につけることができる。 ・人間のふるまい／行為についての基礎的内容、基本的概念を他者に説明することができ、あわせて、その学説や思想を自己の人格形成に努めるための必要な道具立てとすることができる。
ゼミの概要	人間のふるまい、あるいは人間の行為に関わる諸問題について考えていく。一例としては、人間のふるまいを「効用」という視点からとらえ、経済学に結び付けて考えた理論もあるように、われわれの経済活動の源には、人間の「ふるまい」がある。人間には、「真・善・美」という3つのキーワードを用いて、「何を知ることができるのか」、「何をなすべきなのか」、そして「どう感ずるのか」を問うてきた歴史がある。このゼミナールⅡでは、その中でも、「何をなすべきなのか」という人間のふるまい、あるいは自己の在り方・生き方について、西洋の先哲の基本的な考え方の理解を手掛かりとして、考えていく。
授業時間外の学習	<p>予習：(1.5時間程度) 授業の内容は連関しているので、毎回、配布する資料を復習しておき、前の回までの内容を自分なりに考えて授業に臨むようにすること。また、講読の授業の際には、該当の頁をあらかじめ読んでおくこと。また、研究発表に向けては、かなりの準備時間が必要となる。</p> <p>復習：(1.5時間程度) 毎回配布する資料に参考文献を記載するので、復習する際にはそれも参考にすること。</p>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回目か第2回目のゼミナールに必ず出席して、「人間のふるまい／行為」に関する自身の問題意識を書くことが第一条件である。そして、履修登録に先立ち、本ゼミナールに参加希望する旨を本教員に直接表明し、面談を受けることが、第二条件である。 ・本ゼミナールでは、研究発表大会などに出場することがゼミナールに参加する絶対の条件となっている。 ・講読の授業の際には、該当の頁をあらかじめ読んでおくことが全員に義務づけられる。
テキスト	特に指定はしない。授業中に毎回配布するプリントが教科書の代わりとなる。また、パワーポイント、映像資料や文字資料も適宜使用する。
参考文献・資料	マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫 カント『道徳形而上学の基礎づけ』光文社古典新訳文庫
成績評価の方法	3分の2以上の出席を前提に、授業時に毎回提出してもらうリアクションペーパーによる理解度（20%）、発表時の内容（30%）と、定期試験（50%）を総合して、最終的な評価を下す。出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができない。 また、欠席、遅刻、私語、居眠り、無断退出等については減点の対象とする。
オフィスアワー	月曜日 10:40～12:10 火曜日 10:40～12:10 事前連絡があれば、上記時間の他にも可能性あり。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)

学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	日々の暮らしの中に、自分自身の生き方を考える様々なヒントが隠れている。解決することはできないかもしれないが、考え続けるということはとても大切なことである。一緒に人間の問題について考えていこう。
----------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------

授業計画			
第1回	ガイダンス： ゼミ参加者の自己紹介とゼミの進め方	第17回	ガイダンス： 前期の復習と後期の授業展開
第2回	人間のふるまいへの問いの次元(1)： 功利主義と経済活動	第18回	人間のふるまいへの問いの次元(3)： 自由の諸相
第3回	人間のふるまいへの問いの次元(2)： 行為の問題がなぜ生ずるのか	第19回	近世ヨーロッパにおける人間への問い(1)： デカルトの人間観
第4回	よく生きるとは：ソクラテスの人間観	第20回	近世ヨーロッパにおける人間への問い(2)： カントの意志の自由について
第5回	善のアイデアとは：プラトンの人間観	第21回	レポート完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会①
第6回	幸福と中庸の徳とは：アリストテレスの人間観	第22回	レポート完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会②
第7回	人間のふるまいを考える サンデルの著作を読む(1)	第23回	人間が考える「幸福観」とは カントの著作を読む(1)
第8回	人間のふるまいを考える サンデルの著作を読む(2)	第24回	人間が考える「幸福観」とは カントの著作を読む(2)
第9回	人間のふるまいを考える サンデルの著作を読む(3)	第25回	人間が考える「幸福観」とは カントの著作を読む(3)
第10回	人間のふるまいを考える サンデルの著作を読む(4)	第26回	人間が考える「幸福観」とは カントの著作を読む(4)
第11回	人間のふるまいを考える サンデルの著作を読む(5)	第27回	功利主義の思想について(1)： 「最大多数の最大幸福」という考え方について
第12回	人間のふるまいを考える サンデルの著作を読む(6)	第28回	功利主義の思想について(2)： 社会的自由について
第13回	人間の幸福観に関するディスカッション	第29回	レポート完成計画Ⅲ 研究発表会①
第14回	レポート完成計画Ⅰ：(レポート執筆の準備) 文献の探し方、文献注記の書き方など	第30回	レポート完成計画Ⅲ 研究発表会②
第15回	前期のゼミのまとめと夏季休暇中の課題について	第31回	本ゼミナールの総括
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（表現文化）		
	ゼミ担当者名	橋元 志保（はしもと しほ）		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日4限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	大学生としてふさわしい教養を身につけるために、日本やイギリスを中心に歴史・文化・文学について学び、文化の継承をはじめとする諸問題を考察し、論理的に表現できるようになる。
ゼミの到達目標	このゼミナールの単位を良好な成績で修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 世界遺産を中心に日本や海外の文化に触れ、その歴史や特色を説明することができる。 2. 日本やイギリスの文学に触れ、内容を味わい、文化的背景も含めて理解することができる。 3. 文化や文学をテーマにした論理的な文章を書き、発表することができる。
ゼミの概要	表現文化ゼミナールでは、文学や芸術、世界遺産等を中心に国内外の文化に触れ、大学生にふさわしい教養を深めることを目的とします。また、日本やイギリスの文学作品を中心に講読を行い、評論や論文を理解できるような読解力・思考力を涵養します。そして、文化や文学をテーマに論述・プレゼンテーションが行えるような表現力も身につけていきましょう。なお、卒業試験及び就職活動の指導も持続的に行っていきます。
授業時間外の学習	1. ゼミで取り上げる評論や小説を、指定された頁まで必ず読んできてください。また、難解な漢字や語句の意味は必ず調べておきましょう（1時間程度）。 2. 前期・後期ともプレゼンテーションの練習を行いますので、発表日までに、指定されたテーマによるパワーポイントの作成、及び発表準備を行うこと（1～2時間程度）。 3. ゼミで紹介した文学作品やエッセイ、評論等を読むことを推奨します（1～2時間程度）。
履修条件	① 「表現文化ゼミナールⅠ」「文章の読み方」「小論文の書き方」「日本の文学」「福祉と文学」のいずれかの科目を履修し、単位を修得しているか、今年度、上記科目または「旅と文学」「世界の中の日本文学」のいずれかを履修する意欲があること。 ② もしくは、前期の履修登録期間中に面談し、真面目にゼミに参加する意思が確認できた人。 ③ 大学行事等で、他のゼミ生と一緒に行動することも多いので、皆と仲良くできること。 ④ 担当教員から連絡があった場合は必ず応答し、学則は遵守すること。
テキスト	授業時に資料を配布します。尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 2014年）他
参考文献・資料	水原 一 校注 新潮日本古典集成『平家物語』（新潮社）・中村俊介『世界遺産 理想と現実のはざままで』（岩波新書）・『危機にたつ世界遺産34 NHK世界遺産100特別版』（小学館）他
成績評価の方法	【主体的な学びの姿勢（25%）、課題の提出（25%）、定期試験（50%）】の総合評価とします。 1. 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることが出来ません。 2. 授業中の迷惑行為は厳禁です。そのような行為を繰り返し、注意しても改めない場合は、単位を認定できない場合があります。
オフィスアワー	火曜日（14:40～16:10）・木曜日（14:30～16:10）※これ以外の時間は、事前に予約してください。
成績評価基準	秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下）
学生へのメッセージ	ゼミナールは、講義のような一方的な形式ではなく、教員や他のゼミ生達とコミュニケーションを取りながら、論理的な思考と表現方法を学ぶ場です。また、本ゼミでは高杉祭の模擬店や食事会、プチ旅行などを皆で計画して実施したり、将来の進路に向けて真剣に話し合うこともあり

ます。通常の授業と違って、一緒に勉強するだけでなく、将来の夢に向かって努力していくための仲間づくりの場でもあるのです。ぜひ良き仲間たちと共に学び、成長していきましょう。


授業計画			
第1回	キャリア・デザインについて① 自己分析・企業研究を始めよう	第17回	キャリア・デザインについて③ 業界・企業・職種研究と自らの強みについて
第2回	文化を守るとはどういうことか 伝統文化の保全・継承について	第18回	卒業試験対策① 試験内容のポイント解説と振り返り学習
第3回	『日本文化の歴史』を読む① 古代国家の形成と日本神話	第19回	卒業試験対策② 試験内容のポイント解説（観光法規）他
第4回	『日本文化の歴史』を読む② 仏教の受容とその発展	第20回	卒業試験対策③ 試験内容のポイント解説（観光英語）他
第5回	『日本文化の歴史』を読む③ 漢風文化から国風文化へ	第21回	卒業試験対策④ 論述のポイント・添削指導他
第6回	世界遺産と日本の文化① 日本神話と神社・文化財	第22回	世界遺産と危機遺産① 世界遺産の光と影
第7回	世界遺産と日本の文化② 宗像三女神と「神宿る島」宗像・沖ノ島ほか	第23回	世界遺産と危機遺産② コルディエラの棚田について
第8回	世界遺産と日本の文学① 厳島神社と『平家物語』	第24回	世界遺産と危機遺産③ バーミヤンの石仏について
第9回	世界遺産と日本の文化③ 平泉と仏教文化	第25回	論理的に表現する方法を学ぼう 論述のポイントと論文作法
第10回	世界遺産と日本の文学② 平泉と源 義経	第26回	ナショナル・トラストと環境保護① イギリス・湖水地方とピアトリクス・ポター
第11回	世界遺産と日本の文学③ 平泉と松尾芭蕉の旅	第27回	ナショナル・トラストと環境保護② イギリス・湖水地方とピーターラビット
第12回	グループ・ディスカッション 次世代に残したい日本の文化	第28回	グループ・ディスカッション 持続可能な開発と環境保護
第13回	プレゼンテーションの練習① 発表・質疑応答・講評他	第29回	プレゼンテーションの練習③ 発表・質疑応答・講評他
第14回	プレゼンテーションの練習② 発表・質疑応答・論文紹介他	第30回	プレゼンテーションの練習④ 発表・質疑応答・講評・論文紹介他
第15回	キャリア・デザインについて② 資格取得と採用試験の準備について	第31回	キャリア・デザインについて④ 採用試験・履歴書・エントリーシート対策
第16回	定期試験	第32回	定期試験



ゼミナール名	ゼミナール II (国際文化論)		
ゼミ担当者名	半田 幸子		
科目分類	専門科目群		
開講年次	3年次	開講期間	通年
開講時限	金曜日 4限	単位数	2単位
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		


ゼミのテーマ	国際文化論という学問の概要を把握し、国際文化研究に応用可能で研究の手がかりとなる社会理論を学び、自分なりの研究テーマを見つける。
ゼミの到達目標	文化研究の基礎について理解し、文化研究における自分なりの研究テーマを見つける。
ゼミの概要	<p>文献講読を通して、国際文化論の成り立ちや射程範囲を把握し、研究の手がかりとなる社会理論を学びます。国際文化論は学際的な学問であり、射程範囲は大変幅広く、対象も方法も多様です。研究の対象は、芸術、食、衣服、制度、宗教、思想など多岐にわたっており、各自の興味・関心に基づいてテーマの選択が可能です(但し、教員と要相談)。このゼミでは、まずは身近な文化現象であるポップカルチャーを通して分析および考察するための視点と理論を学びます。</p> <p>前期は、文献講読を通して文化研究の基礎を学び、同時に、批判的読解力、要約力、発表力、理解力、論理的思考力を養います。並行して前期をかけて自分なりのテーマを考え、前期の終わり頃までに暫定的なテーマを設定してもらいます。テーマの設定にあたっては、教員と相談しながら行います。後期には、設定したテーマに関してゼミ論文を作成し、適宜、研究の進捗状況を発表してもらいます。前期はレポートを、後期はゼミ論文を提出してもらいます。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・文献講読に関しては、担当を与えられた場合には、担当箇所を読んで、要点をまとめ、レジュメを作成する。(週 1.5 時間～3 時間程度) ・担当ではない場合にも、事前に読んでおき、不明点や疑問点を明確にする。(週 1.5 時間程度) ・自分なりのテーマを考える。(週 1 時間程度)
履修条件	<p>以下の 1. は必須条件とし、2. および 3. のいずれかに当てはまることを履修条件とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に学ぶ意欲があること。 2. 「国際的なこと」や「文化的なこと」に興味があること。 3. 文化研究または人文系の研究や学問に関心があること
テキスト	遠藤英樹『現代文化論』ミネルヴァ書房、2011年。
参考文献・資料	平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会、2000年。他、ゼミナールの中で、適宜、紹介します。
成績評価の方法	<p>【ゼミへの参加態度 (25%)、発表 (25%)、レポート・ゼミ論文 (50%)】</p> <p>上記評価項目をもとにして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	<p>毎週月曜日・水曜日 15:00～</p> <p>※これ以外の時間・曜日は、事前に予約をとってください。</p>
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>自分なりの問いやテーマを見つけ、それを時間と労力をかけて究めることができれば、知識だけでなく論理的思考力と文章力が鍛えられます。加えて、達成感も得ることができ、自信につながります。ここで鍛えた力は、就職活動においても、また、その先の社会人としても役に立つでしょう。あらゆることに好奇心旺盛に、一つひとつの発見を楽しみましょう。</p> <p>今年度は新規開講のため、人文系の研究に免疫のない学生向けに個別指導は多めに行いますが、勉強量や読書量も多いゼミです。次年度に卒業論文に取り組む意欲のある学生を歓迎します。</p>

授業計画（以下の計画は、授業の進捗状況および受講者の人数や学習状況によっては変更することがあります。）			
第1回	ガイダンス ①（ゼミ概要説明、教科書説明、自己紹介）	第17回	各自の進捗報告（先行研究と一次資料調査）
第2回	ガイダンス ②（役割分担等）	第18回	先行研究と一次資料の収集および整理に関する注意事項
第3回	文献講読の進め方（レジュメの作り方等） 文献講読 ①『国際文化論』教員による紹介	第19回	先行研究と一次資料：個別指導
第4回	文献講読 ② 「第1講 映画：1. 構造主義、2. 物語論」	第20回	先行研究と一次資料の収集状況に関する報告 ①
第5回	文献講読 ③「第2講 テレビドラマ：1. 視聴者（オーディエンス）分析、2. 視聴者（オーディエンス）のエスノグラフィー」	第21回	先行研究と一次資料の収集状況に関する報告 ②
第6回	文献講読 ④「第3講 ポピュラーミュージック：1. 文化資本論、2. 経路（ラウト [routes]）」	第22回	先行研究と一次資料の収集状況に関する報告 ③
第7回	文献講読 ⑤「第9講 観光：1. 擬似イベント、2. シミュレーション」	第23回	ゼミ論文の報告の仕方、資料作成方法、注意事項、個別指導
第8回	文献講読 ⑥「第10講 お笑い：1. フレミング、2. 構築主義」	第24回	中間報告 ①（分析および考察の進捗）
第9回	研究テーマに関する中間報告	第25回	中間報告 ②（分析および考察の進捗）
第10回	文献講読 ⑦「第8講 ファッション：1. 記号論、2. 「大きな物語の終焉」	第26回	中間報告 ③（分析および考察の進捗）
第11回	文献講読 ⑧「第4講 アニメ：1. ソフト・パワー論、2. オリエンタリズム論」	第27回	ゼミ論文の執筆：個別指導
第12回	文献講読 ⑨「第5講 マンガ：1. 文化産業論、2. 価値形態論」	第28回	ゼミ論文発表 ①（分析、考察、結論）
第13回	文献講読 ⑩「第6講 文学：1. 間テクスト性、2. 脱構築」	第29回	ゼミ論文発表 ②（分析、考察、結論）
第14回	文献講読 ⑪「第7講 パーソナル・コンピュータ：1. ホット・メディアとクール・メディア、2. 公共性論」	第30回	ゼミ論文発表 ③（分析、考察、結論）
第15回	各自の研究テーマ発表（背景と目的）	第31回	総括
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（日本経済のマクロ分析）		
	ゼミ担当者名	深澤泰郎		
	科目分類	専門科目群（第1グループ）		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		


ゼミのテーマ	マクロ経済学的視点から、日本経済の問題点を探りその実態を明確にする。3年次は大きな問題点を個別に掘り下げる。
ゼミの到達目標	日本経済の主要な問題点である、公的社会保障問題、マイナス金利まで踏みこんだ金融政策の収束方法という金融政策問題の2点に絞って深く学びます。
ゼミの概要	3年次ということで、上記の2点について深く学ぶため輪読と意見発表の展開で進めます。2点についての理解を深めるとともに、自ら考える姿勢を自分のものとして下さい。他人の意見もよく聞いてお互いに討論して下さい。また、この1年で自分の研究テーマを絞って下さい。経済学部ゼミナール大会または令和3年度「私立大学等即戦力育成支援事業」のどちらかで、グループ研究発表を行ってまいります。 受講者の理解度、進行状況等を考慮して、シラバスを変更する場合があります。
授業時間外の学習	テキストの内容について、最新の経済データを事前に準備すること。 日本経済新聞を購読すること（ゼミの最初に、その日の記事について質問します）
履修条件	マクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅱ、生活経済学の単位を取得済みかまたは同時履修すること。
テキスト	「税と社会保障の抜本改革」西沢俊彦 日本経済新聞社 「異次元緩和の終焉」野口悠紀雄 日本経済出版社
参考文献・資料	「金融政策の死」野口悠紀雄 日本経済出版社 「マイナス金利」徳勝玲子 東洋経済新報社 日本経済と財政危機の本質シリーズ7「社会保障の構造問題－健康保険と医療保険の実態」深澤泰郎、 同シリーズ11「高齢者ポピュリズムに侵された国、日本！」深澤泰郎、 その他についてはゼミの中でお話しします。
成績評価の方法	輪読と意見発表と討論（50%）、まとめのレポート（50%） 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることが出来ません。
オフィスアワー	水曜日 13:00～14:30 14:40～16:10 木曜日 13:00～14:30 14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	日本の将来はマクロ経済的には暗い展望しか描けません。その解決策を探るには、まず日本経済の実態を把握して、将来予想を行う必要があります。そのうえで自分で考える姿勢を習得できれば、就職の際にも、さらに就職後の人生に、「有効なツール」となります。個人として幸福になる道を探します。

授業計画			
第1回	ガイダンス 教科書紹介 1年間の目標設定	第17回	効果なしと分かっていた量的緩和をなぜ繰り返したのか?
第2回	日本の税制と社会保障	第18回	弊害の大きいマイナス金利と長期金利操作
第3回	消費税の構造と課題	第19回	物価上昇率目標は達成できず
第4回	個人所得課税への期待と限界	第20回	消費を増加させず、格差が拡大(1) 賃金
第5回	年金財政 世代交代の視点と年金財政改革	第21回	消費を増加させず、格差が拡大(2) 円安
第6回	年金制度	第22回	世界は金融緩和政策からの脱却を目指したが……
第7回	健康保険財政との構造と高齢者医療制度	第23回	出口に立ちふさがる深刻な障害(1) 日銀の状況
第8回	国民皆保険の現状と改革の指針	第24回	出口に立ちふさがる深刻な障害(2) マクロ経済
第9回	給付付き税額控除の可能性と課題	第25回	ひそかに進む金融・経済の浸食
第10回	2019年度の公的年金の財政検証について	第26回	ジャパンプレミアムが映す日本経済
第11回	社会保険の構造問題 健康保険と医療財政の実態	第27回	第17回～第25回のまとめとレポート作成
第12回	高齢者ポピュリズムに侵された国、日本!	第28回	レポート作成
第13回	第2回～第12回のまとめとレポート作成	第29回	レポート作成発表と討論
第14回	レポート作成	第30回	年間レポート作成
第15回	レポート発表と討論	第31回	年間レポート作成
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（労働経済・社会保障）		
	ゼミ担当者名	藤本 剛		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	地域の労働経済・社会保障についての考察
ゼミの到達目標	地域の労働経済・社会保障に関連するテーマについて調査し、レポートにまとめ発表する。
ゼミの概要	労働経済・社会保障に関する知識を身につけ、自ら選んだテーマについて地域の実情を調べ、まとめる。
授業時間外の学習	地元紙に丹念に目を通し、素材となるテーマについて検討し、理解を深める。
履修条件	意欲的に取り組む気持ちが必要である。また、ゼミナール構成員同士の交流や意見交換に積極的に対応できるよう心掛けてほしい。
テキスト	プリント等を用意する。
参考文献・資料	石畑良太郎他編著『よくわかる社会政策』第3版 『厚生労働白書』各年版 『労働経済白書』各年版 秋田県商工会議所連合会監修『秋田ふるさと検定公式テキスト』秋田文化出版
成績評価の方法	出席状況、提出レポート、調査報告、ゼミ活動への積極参加姿勢 等から評価する。 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることが出来ません。
オフィスアワー	月曜日の12時～13時 木曜日の17時～18時
成績評価基準	定期試験に準じる。 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	最初にゼミを担当してから38年になります。でも10数年、附属こども園の兼務などもあって昨年まではゼミから遠ざかっていました。新たな気持ちでゼミ活動に取り組んでいますので、よろしく。大学で最も中心となる3年次の1年間を、共に有意義に送りましょう。


授業計画			
第1回	ゼミナール活動方針についての説明と話し合い。	第17回	グループ研究の一応のまとめ
第2回	「社会保障」で学んだ社会保険や年金のことを思い出そう。地域とのかかわりがどうなのか、考えてみよう。	第18回	グループ研究のまとめとパワポ作成①
第3回	「社会保障」で学んだ医療保険のことを思い出そう。地域と深いかかわりがあることを再認識しよう。	第19回	卒業試験対策③
第4回	「社会保障」で学んだ介護保険のことを思い出そう。地域の活動にひとつの焦点が当てられていることは何を意味しているのか、考えてみよう。	第20回	パワポ作成②
第5回	ゼミナール大会で取り上げるテーマについて議論しよう。	第21回	パワポ作成③と模擬発表
第6回	前回の続き。そして、卒業試験対策をどう進めるか、話し合おう。	第22回	中間報告会にむけた準備と練習①
第7回	ゼミナール大会の準備として、テーマの絞り込み、グループ分けなどについて話し合い、各グループで方針を決めよう。	第23回	中間報告会にむけた準備と練習②
第8回	グループごとの方針に沿って、活動を開始しよう。	第24回	ゼミナール大会中間報告会（予定）
第9回	フィールドワークを含むグループ活動①	第25回	中間報告の反省と改善① 卒業試験対策④
第10回	フィールドワークを含むグループ活動②	第26回	中間報告の反省と改善②
第11回	フィールドワークを含むグループ活動③	第27回	大会報告最終確認
第12回	フィールドワークを含むグループ活動④	第28回	ゼミナール大会予選（予定）
第13回	卒業試験対策②	第29回	ゼミナール大会本選（予定）
第14回	フィールドワークを含むグループ活動⑤	第30回	ゼミナール大会を振り返って
第15回	前期のまとめと今後の方針についての話し合い	第31回	就職活動について話し合おう
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ（環境学）		
	ゼミ担当者名	村中 孝司（むらなか たかし）		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日2限	単位数	2単位

ゼミのテーマ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 農業・林業など、さまざまな地域の実態から環境と経済の問題を考える。 2. 研究の成果を発表し、口頭や文章で表現する方法を学ぶ。 3. 自分自身が大学生4年間でやり遂げた成果を1つ作る。
ゼミの到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食料と農林漁業に関する問題、自然風景の評価手法、生物多様性に関する問題など、多様な視点から地域課題に関するテーマを調査し、環境や地域に対する理解を深めます。 2. メンバーの発表をよく聴き、質問や意見を述べる力を身につけます。 3. 学術書をよく読み、文章を良く理解し、自分で表現する力を身につけます。 4. 大学生としてどのような学業を修めたか作るための研究を進めます。
ゼミの概要	<p>環境学ゼミナールは、環境と社会に注目し、持続可能な社会の構築を科学的に考えることを目標にしています。自然や社会における問題を発見し、解決に導く勉強を行います。また、フィールドワークを併せて実施します。座学の勉強だけでは問題を発見することは難しいからです。自然界や社会に対する皆さんの観察眼が向上し、問題を見つけ出す力を養成します。</p> <p>ゼミの内容は、①輪読、②研究の2つです。</p> <p>① 輪読では、環境や食料問題、科学的方法などに関する学術書を読み、知識と考え方を身につけます。</p> <p>② 研究では、自主研究テーマを各自で決め、年度末までに自主研究レポートを作成または、ゼミナール大会で発表します。これは、将来、卒業論文として完成させるための準備として位置づけられます。3年生のゼミは、学問の入り口から自身の関心事を鳥瞰し、どのようなテーマに取り組むのかをよく考える期間となります。</p>
授業時間外の学習	<p>図書館や自宅では本や論文を読み、知識や文章の書き方、論理的な説明の方法を学んでください。ゼミナール内外の仲間たちとも、よく議論してください。ただ漠然と日常を過ごすのではなく、どこかに興味深い問題が転がっていないか、探索する眼を養ってください。あらゆる場所に、興味深いテーマは落ちています。</p>
履修条件	<p>次の①、②の条件をともに満たす者としてします。</p> <p>① 研究活動に熱心に取り組むことができる者。</p> <p>② 次の（ア）、（イ）のうち1つ以上を満たす者。</p> <p>（ア） 環境学ゼミナールⅠを履修済み。または、別途所属の了解を得た者。</p> <p>（イ） 自然科学概論Ⅰ・Ⅱ、基礎数学Ⅰ・Ⅱ、統計学、地球環境学、地域フィールドワーク、総合科目Ⅰ・Ⅱ（村中クラス）、自然と地理、地理学の基礎Ⅰ・Ⅱの中から6単位以上履修済み。ただし、地域フィールドワークを含む場合は4単位以上で良い。</p>
テキスト	ゼミナール中に紹介します。（以下の授業計画は『環境と社会 新訂』のものを示す）
参考文献・資料	ゼミナール中に紹介します。
成績評価の方法	<p>① 輪読（50%）、自主研究（発表と準備などに対して）（50%）</p> <p>② ①に対してそれぞれ、発表（50%）、他者への質問・コメント・意見・議論等（50%）</p> <p>※出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることが出来ません。</p>
オフィスアワー	火曜日 14:40～16:10、水曜日 14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>大学は学問に取り組むところです。学問に対して真剣に取り組むのならば、どのようなテーマでもよいと思います。自信を持って他者に自慢できる研究を行ってほしいと願っています。</p> <p>ゼミナール研修会（夏期）は、皆さんの希望を聴き、宿泊で県外の観光地へ行きます。これまで、</p>

東京、札幌、福岡、京都・奈良、仙台、盛岡などに行きました。学生相互の親睦は、研究活動によって養われることをモットーとしていますので、親睦会をほとんど実施しません。もし、みなさんの要望が数多くあれば実施することもあります。

授業計画（環境学ゼミナールⅡ）			
第1回	ガイダンス 体験入室①（前半）	第17回	研究⑨ 論文紹介①（グループA）
第2回	ガイダンス 体験入室②（後半）	第18回	研究⑩ 論文紹介②（グループB）
第3回	研究① 観察記録の方法 定性データと定量データ	第19回	輪読⑦ 気候変動問題と炭素経済
第4回	研究② 自然現象・社会現象を記録する 量的データの表現	第20回	輪読⑧ 「環境と経済の両立」から持続可能な発展へ
第5回	研究③ 自主研究テーマの考案	第21回	輪読⑨ 環境税
第6回	輪読① 環境問題とは何か	第22回	輪読⑩ 環境とエネルギーの経済学
第7回	輪読② 環境問題の歴史、公害	第23回	研究⑪ 自主研究テーマの準備②
第8回	研究④ 文献から得られる情報収集と先行研究	第24回	輪読⑪ 環境における法規制の役割
第9回	輪読③ 地球環境問題	第25回	輪読⑫ 環境基本法と環境法の理念・原則
第10回	研究⑤ 先行研究の読解	第26回	研究⑫ 中間報告
第11回	輪読④ 環境問題と経済学	第27回	ゼミナール大会（予選）
第12回	輪読⑤ 環境の経済価値と評価	第28回	ゼミナール大会（決勝）
第13回	研究⑥ 自主研究テーマの準備①	第29回	研究⑬ 成果報告①（グループA）
第14回	輪読⑥ 環境政策の目的と手段	第30回	研究⑭ 成果報告②（グループB）
第15回	研究⑦ 専門書紹介①（グループA）	第31回	研究⑮ 成果報告③（予備日）
第16回	研究⑧ 専門書紹介②（グループB）	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅡ (キャリアプランニング)		
	ゼミ担当者名	横田 恵三郎		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	3年次	開講期間	通年
	開講時限	金曜日4限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	企業の採用活動開始まで残すところわずかとなるところでキャリアプランニングの考え方と自己理解を的確に行ない、観光系企業を進路に定める学生が選択肢を絞ることが出来る。
ゼミの到達目標	就職活動に向けて自己の目標や対象が明確になる。
ゼミの概要	充実した幸せな仕事や人生を送るためにキャリアプランニングの概念を学び、これまでの人生を振り返りつつ自己分析を積み重ねる。実際に目標と計画を立て、観光系企業において確実にキャリアを形成できるよう具体的に演習を中心に行なっていく。
授業時間外の学習	進路予定の企業やその業界について日々情報の収集にあたること、また時事問題、社会問題など一般的な知識を蓄積していくこと(1.0時間程度)。
履修条件	ホテル、旅行会社、航空会社、鉄道会社等の観光系企業に進路を定めている3年生で原則、2年次のゼミナールでキャリアプランニングⅠを履修済であること。
テキスト	その都度プリントを配付する。
参考文献・資料	その都度案内する。
成績評価の方法	定期試験 50%、取組姿勢・態度 50%とし総合的に評価する。出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日：2限(10：40-12：10) 木曜日：2～3限(10：30-14：00)
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	ホテル、旅館、旅行会社、鉄道会社、航空会社等の観光系企業への就職に興味、関心を持っている皆さん、就職活動開始まで時間の余裕はありません。目標を立ててしっかり自己分析し、計画的に取り組めば自ずと結果は付いてくるものです。社会人として必要なマナーも学びます。さあ、時間を無駄にしないで早速取り組みましょう

授業計画			
第1回	オリエンテーション①(トライアル参加) キャリアプランニングとは	第17回	社会人基礎力① 自身の価値観
第2回	オリエンテーション②(トライアル参加) キャリアプランニングとは 個人面談	第18回	社会人基礎力② グループの価値観(ディスカッション)
第3回	自己紹介 個人面談	第19回	社会人基礎力③ 論理的思考力
第4回	キャリアアンカー理論とは	第20回	社会人基礎力④ 批判的思考力
第5回	キャリアアンカーチェックリスト(演習)	第21回	社会人基礎力⑤ 総合力を身に付ける(演習)
第6回	自身のキャリアアンカーを分析	第22回	社会人基礎力⑥ 情報の収集と分類
第7回	自己理解を深める① TST 基本編(演習)	第23回	観光系企業担当者によるセミナー
第8回	自己理解を深める② TST 応用編(演習)	第24回	キャリアの入口に向けて① 敬語の使い方
第9回	自己理解を深める③ 性格を知る	第25回	キャリアの入口に向けて② ビジネスマナーa
第10回	自己理解を深める④ Big Five 尺度(演習)	第26回	キャリアの入口に向けて③ ビジネスマナーb
第11回	自己理解を深める⑤ 振り返り	第27回	キャリアの入口に向けて④ グループ面接演習
第12回	自己認知と他者認知(演習)	第28回	キャリアの入口に向けて⑤ グループワーク演習
第13回	自己認知と他者認知(分析)	第29回	キャリアの入口に向けて⑥ 個人面接演習 a
第14回	自己認知と他者認知(振り返り)	第30回	キャリアの入口に向けて⑦ 個人面接演習 b
第15回	まとめ	第31回	定期試験
第16回	個人面談		